



東国分中だより

令和7年6月20日

NO.5

学校 HP

学校教育目標 「夢や希望を抱き、生きる力を持った生徒の育成」
～知・徳・体の調和のとれた生徒～
<https://ichikawa-school.ed.jp/ekokubun-chu/>

東国分爽風学園
市川市立東国分中学校
校長 植木 昭貴



来るる進路決定に向けて

6月18日、「3学年進路保護者会」と、高校の先生を招いた「家庭教育学級」が開催されました。

家庭教育学級では、3年保護者以外の方も多く参加しており、関心の高さがうかがえました。

3年生の大きな取組として進路選択、進路決定がありますが、今回は多くの生徒が希望している「進学」について取り上げてみます。まず、進路決定までの大まかな流れは以下のようになります。



- ① **志望校の選定**（特に夏休みに多くの学校で学校説明会や体験入学等が行われています）
- ② **受験校の決定**（10月下旬の三者面談で受験校を決定し、出願の準備に入ります）
- ③ **出願、入試、合格発表**（試験で力を発揮することも大切ですが、手続きを滞りなく済ませることも大事です）

そして、合否を決める要素に「入学試験」と「調査書」が挙げられます。

○ 入学試験(公立高校では「学力検査及び学校設定検査」といいます)

テスト形式の学力試験だけでなく、面接、作文、適性検査（実技試験等）、自己表現などの試験を行う学校もあります。

学力試験は、公立（県立・市立等）高校では全学校共通の問題で5教科（国社数理英）、私立高校では各校独自の問題で3教科（国数英）により行うところが多いですが、公立・私立ともに学校や学科によって試験の教科数が異なることもあります。また、理数科や英語科等、学科によっては特定の教科の得点に1.5倍などの倍率をかける学校もあります。

○ 調査書

受験者の状況について教職員が記載する書類のこと、内申書ともいわれます。

公立高校の場合は、統一の様式であり、各学年における9教科の年間評定（1,2年生は3学期通知表で記載、3年生は12月末までのもの）、特別活動の記録（主に係活動や委員会活動、学校行事等での活躍状況）、所属部活動、校内外における取得資格や入賞状況等を記載します（今年度より「出欠の記録」「行動の記録」「総合所見」等の欄が削除されています）。評定については、3年間の年間評定の合計が考慮されます。例えば中1から中3までの3年間、全ての教科の年間評定が「3」であった生徒の場合は、3（評定）×9教科×3年間で内申点は「81」となります（最高点は「135」点）。

私立高校の場合は、独自様式の調査書がある学校もありますが、多くは公立高校と同じ、または類似の様式です。そして公立同様3年間の評定を記載する学校が多いですが、推薦入試においては、例えば、3年時の3教科や5教科の合計値など、各高校が定めた基準や条件等が受験資格の有無や合否への参考となります。また、部活動や生徒会活動での実績や資格などがある場合、ポイントが加点される学校もあります。推薦の考え方や実施方法は学校によって異なります。詳しくは学校説明会や各学校が公表している資料から確認してください。また、調査書の重視度は学校により異なります（公立高校では毎年10月頃に公表しています）。 **※上記の内容は、令和6年度末の情報であり、今後変わることもあります。**

進路決定に向けては、計画的に進められるよう、早いうちから基本的な仕組みや流れを知り、意識を高くしておくことや最新の情報を知っておくことが大切です。そして、日々の授業や様々な活動を「受験のため」と考えるのではなく、「毎日を充実して過ごそう」と意識することで身につけるべき力が備わると思います。また、とかく進路先の決定に目が向きやすいですが、大切なのは進路先でいかに充実した高校生活が過ごせるかです。中途退学の理由として「学校生活・学業不適応」が最も多いことからも、希望の高校を学力や一部の情報だけで判断するのではなく、興味を持った学校に直接足を運び、校風が自分に合っているか、やりがいをもてる環境がそろっているか、無理はないかなど、「この学校で頑張りたい。」と心から思える学校を見つけることが大切です。